

「辛抱とは、誰のための、何の為のものなのだろうか？」へのコメント

当 HP の「辛抱とは、誰のための、何の為のものなのだろうか？」の記事をお読みいただき、早速、コメントをいただきましたので、参考までに紹介します。

更に、いただきましたら、随時当ファイルを追加・更新します。

2006. 12. 9. 阿部幸泰

⑪ HP 拝見しました。

障害者が公共の場で排除されるのは困りますね。

勇気を出して場に出てみえるのだけで大変なことでしょうに。追い打ちかけるようなことをなぜするのでしょうか。

自分のことだけしか考えてない利己主義者ですよ。

弱い人達にやさしく出来ない社会では健常者にもよい社会とはいえません。

人が人に優しくなくなったから生きにくい世の中になったんでしょうか。

教育現場もでしょうか。

⑩ 凄く難しい問題だと思います。

人工呼吸機をつけてる人だって聞きたいだろうし、周りの人がうるさいと感じるのも事実かなと思います。

もし経済的なものが許されるのであれば、よく有名な人が野球観戦などするときに、別室のようなところから見ているガラス張りのような部屋を会場に設置できれば..もしくは少し人工呼吸機を付けている人と周りの人を離すようにすればお互い支障なく聞けるのではないかなと思います。

でも大事なのは思いやれる気持ちかなと思います。

せっかく同じものを楽しもうと来ているのに、結果的には帰らせてしまったお客さんも気分がのらなかったらうし、呼吸機をつけている人も非常に悲しかったと思います。

よくわからない文ですいません(>\_<)

⑨ HP の感想を送ろうと思ったのですが、結局結論が出ませんが、少し書こうと思います。

筋ジスの方が、オーケストラを見に、聴きに行きたいと思う事は、ごく普通の事だと思いました。体に障害があっても、一人の人間として生きていく権利があるから。普通の健常者と変わらず趣味を楽しみ、笑いながら生きていく権利があるから。

一方、健常者の意見も理解することができます。

両方の考えや気持ちを理解できるからこそ、その様な時、どうすれば良いのか、という結論を出す事が出来ませんでした。

一つの考えが頭の中に浮かび上がりました。“キッズルーム”のようなもの。

これは、小さな子どもが泣いたり、うるさくしても良いようにしてある部屋です。こうしたものをホールにつければ良いのにと思いました。

ホールに部屋があり、部屋の中からステージを見ることが出来る。(ガラスなどで)直接の音+スピーカーがあり…という考えを想像しました。

しかし、これは、障害者にとって失礼なのだろうか。

結局、沢山考える事ができるものの、良い結論は出来ませんでした。

⑧考えていたのですが、私には難しすぎて簡単に言うことができません。

⑦辛抱は、誰のため・・・ぱっと頭に浮かんだのが、自分のため？

なんで？・・・

周りに迷惑を掛けたくないし、嫌な思いもしたくない。臆病なのでしょうか

私が会場にいた場合、凄く楽しみにしていた音楽会、うるさいな～と感じながらも我慢するかも

それは、子供たちのお陰で色々障害について少しばかり知識があったりするからかな？

でも、気持ち良くできるのかな（音の大きさにもよるけど）～と思うと微妙。

昔、〇〇で有名なピアニストの演奏会で子供の声がうるさくて 演奏者は、マナーが成っていないとたいへんお怒りになったと言う噂がありました。

何十年ぶりかにそのピアニストが来〇した時は、子供ずれは遠慮してください。と明記してあったとか

旅館にも、小さいお子様ずれのお客様は、受け入れられないところもあります。

静かにすごしていただきたいという旅館の配慮だと思うのですが

逆に、たしか福島の〇〇亭だったと思いますが、お年寄りや障害者を思って建てた旅館もあるのです。

心のバリアフリーについては、正直言って、分かりません。

いつ自分自身が障害者の立場、重度障害者の親になるかもしれないという思いはあります。

協力できることは、協力し、出来ないことは、何故かをはっきり言えるようにしたいな～と考えています。

#### ⑥HP 拝見しました！　すごく難しいです…

私がコンサート会場にいて、隣に障害者が来ていて、人工呼吸器の音がうるさくても自分が楽しみにしてたコンサートに集中できてすごく良かった！…とはやはり思えないかもしれません。

でも私と同じくその人も楽しみにしているコンサートなのです。私だって呼吸します。

その人だって呼吸してるし、ただ呼吸を助ける機械をつけてるだけ。それを自分の勝手に苦情を言うことは出来ないと思います。お金だって同じに払ってるのに。

同じに生きているのに自分と少し何かが違うだけで嫌に思ったりしてはいけません！！

そうわかっていればコンサート会場でその場面にでくわしても共に楽しんで嫌な思いをしなくて良いし、最初からそう感じることもないと思います。

でも人それぞれの感じかたもあるし、障害者の理解度も違うので、とても難しいです。

もっと多くの方が障害者に対して共に生きるということを考えて理解してもらいたいです。

辛抱とは我慢するとはまた違うと思います。辛抱とは…説明するのは難しいけど私は「ちよっとは気にするけど別に良いや～大丈夫！」みたいな感じだと思いました。

本当よくわかりませんが(>\_<)笑

今の私の頭ではいっぱいいっぱいです。　今日もたくさん考えました！

#### ⑤昨日の夜に先生の HP の『辛抱とは、誰のための、何の為のものなのだろうか？』を拝

見させていただきました。

そして仮に私がコンサート会場の観客だったら…？と考えてみました。

私は筋ジストロフィーの方も周囲にいないので、正直呼吸器の音がどういったものなのか分かりかねます。

ただ私を含む周りの観客か障害者の方々のどちらかが辛抱をしなければならないのなら迷わず私たちが辛抱すべきだと考えます。

辛抱と言うと何となく聞こえが悪いですが、障害者の方を退席させてまでコンサートを楽しみたいありません。そんな心で鑑賞しても綺麗な演奏は聴けないと思います。

“一人は皆のために、皆は一人のために”私の好きな言葉のひとつです。

近い将来誰の心にもバリアフリーが構成されるといいです(>\_<)

私の心のバリアフリーもまだまだ未完成なので、これから創りあげていきたいです。

この間初めて『五体不満足』を読みました。

乙武さんは私が障害を持つ方に持っていたイメージを覆してくれました。

私と何ら変わりのない人に対して、変に何かしなければ…とか同情したりとかするのはおかしいと思い直しました。

今後は、ただ困っている人には手を貸すという当たり前の精神で障害者の方と関わっていかうと思います。

相手の立場にたって考え行動する、どんな場合でも、どんな人にでも、常にこういう気持ちで接していきたいです。

④NHK教育TV番組、私は、録画したままで、まだ観ていないのですが、HPの問いかけには、考え込んでしまいました

私が、観客の一人だったら、どうしただろう

その場で一緒に過ごしたとして、表面上は普通にしている、内面ではどうだろうか

きっと自分を中心に考えてしまうかも知れません

まず理解しようという気持ちになれるだろうか、相手の思いを、本当に想像できるだろうか

想像して、相手の思いに共感したり、共有できないから、自身の中で辛抱させられていると感じる自分と向き合ってしまうのではと、感じました

自分が実感している事なら、きっと辛抱しているとは感じずに、日常として受け入れら

れると思います

実感する為には、日常で係わり合いを育む機会が必要です

それが残念ながら、日常となっていないのでしょうか どうして日常にならないのか  
通勤時のラッシュ時、地下鉄で、せっかく作られたEVも、足早に利用する人ばかりで  
本当に使いたい人が遠慮してしまう日常を受け入れている自分がいます

自分に余裕が無いと、流されてしまうのか

ハードが整えられても、結局は、係わりあう人の問題という事に、気づかされます

今は、心の弱い自分です

でも子供の障害と向き合ったとき、障害について社会が解ってほしいと願う自分を鏡に  
写してみると、今まで自分は、逆の立場で理解しようとしてきただろうか

そして子供と出会った事をきっかけに、人の繋がりによって活かされる事を教わり支え  
られる事を実感しています

いつか他者との係わり合いの中で、お互い様を自然体にして、過ごせる自分になりたい  
です

③ HP を拝見するたびに、考えることが多々ありますが、真の福祉を実現していく為にど  
うしたらよいのかはわからないものだと難しく考えてしまいます。

今回のコンサート会場では、私だったら、呼吸器の音が出ているけど音楽を聴きたいと  
思う青年の気持ちを考え、私が少々の音は我慢すると思いました。でもこう考えるのは保  
育士として勉強してきたからだと思います。

一般の人は耐えられないと文句を言う考えだと思います。

私は一般の人の理解を得るには、コンサートが始まる前に、呼吸器の音が出てしまうけ  
れど悪気があるわけではないこと、一緒に音楽を楽しみたいことを係員と共に周りに伝え  
ておけば、少しは理解されるのではないかと思います。

事前にコミュニケーションを図れば相手に対する気持ちも良くなると思います。それで  
も嫌と思う人もいるかもしれませんが…。

事例の現場に居合わせた時に、福祉を少し勉強した私が後から理解を求めるよりも、事  
前に話し掛けたりしていたら退席は防げるのではないかと思います。

②また、難しい問題提起だと感じました。

以前、東京までの夜行バスに乗ったときのことを思い出しました。

私達の斜め後ろには、父・母・子の3人の親子が乗っていました。

しばらくすると鼻をすする（というより、ぶう〜と鼻を鳴らす？）音が聞こえてきました。最初は聞き流していましたが、何度も何度も続き気に障るほどの音でした。気になって眠れない…

母親も父親も注意することなく、おかしいなと思いましたが、あとからその子は障害児かもしれないと気づきました。

その時は友達と、「障害を持っているいないで言うわけではないけど、夜行バスでそのような癖を持っている子なら、交通手段を考えればいいのにね」と話しました。

飛行機で行けば高いし、その家族がバスに乗ってはいけないわけでもなく、利用する権利だってある。

また、私達も同じく権利を持っていてバスを利用した。

両者が満足できる場合もあるし、出来ない場合だって世の中たくさんある。

どちらかが辛抱しなくてはならない場合、障害のあるなしにかかわらずどちらが辛抱すべきか…

夜行バスはみんな静かに眠りたいはずで、クラシックコンサートは静かに聴きたいはず。昼間のバスなら問題ないし、ラテン音楽のコンサートだったら多少の音は気にならないはず。。

時と場合を考えれば、障害者が辛抱しなければならない場合もあるように感じます。

たいていの親は、夜泣きのひどい子どもを連れて夜行バスには乗らないと思いますし…

でもそんなこと言ったら、圧倒的に障害者が辛抱しなくてはならない場合が多くなるのかな。。

①今回の記事は興味深く拝見しました。

記事を読んだ直後の感想は『う〜ん。難しい問題だな。』でした。

人間は自分自身の問題に関わることであれば、辛抱ができると思いますが、他人から自分に降りかかる火の粉（適切な表現ではないかもしれませんが）に対しては、辛抱できない

のでしょう。

今回の記事について

◎ 係員に注意した人

- 障害者のことをあまり知らない → 啓蒙が必要
- クラシックが好きなので、繊細な音色を味わいたいのも情動的に分かる

◎ 主催者側

- 障害者のことをあまり知らない（障害者用座席を用意すればよいと思っている）  
→ 具体的に教えることが必要
- 係員への教育が必要

※ いずれにしても真の意味での『障害者に対する理解』は道半ばなのだと思います。

#### 【私のコメント】

私は筋ジスの方々との係わりも長いので、人工呼吸器装着しての日常の不都合さも分かるだけに、「よくぞ、演奏会に来た！」と心で喝采を贈る方かな。

一方、障害者や難病の方に接したことがない方には、体験談のようなことも起こりえることだけに、「心のバリアフリー」が叫ばれていますが、こうした個人の趣向レベルの状況では本当に難しい問題だろうと思い、みなさんのご意見をお聞きした次第です。

まず、演奏会等でのマナーの問題と人工呼吸器の問題は、質的に異なることを、まず確認したいと思います。

例えば、幼い子どもを連れて行って子どもが泣くからと退場することはありえますが、子連れでなく一人でコンサートに来るための方法（選択肢）は色々ありますよね。

このようにマナーには、選択肢がありますよね。

人工呼吸器を着けずにコンサートに行くには、今のところ他に選択肢はないですね。

観客のある人の耳には、子どもの泣き声も人工呼吸器の音も雑音といえれば同じ雑音。

本当に難しい問題だろうなあと思います。

こうした状況が生じないように、やはり日頃から、障害ある、なしに拘わらず、まずはお互いが本音（想い）を発信することが大事かと思っています。

発信せず、また、あれこれ相手の想いを勝手に憶測するだけだと、誤解が生じ、差別感を助長しかねませんよね（「見ずして信じるは、幸いなり」という言葉がありますしね）。

発信し放しや一方的に自分の意見を押しつけるのではなく、まず互いに本音を伝え合って、互いが譲り合うところは譲り合うことが大事かと思っています。

そのために本音を発信する勇気も必要かなと思っています。

そして異なる意見を耳にしたら、そこで自分を検証し、譲ることが適切と思えば譲ればいいのかと思っています。

更に云えば、互いが辛抱できないということであれば、その状況はお互いが少し辛抱し合い、その状況のように互いが辛抱し合う必要のないように、次に同じような状況にならないように建設的に周りも巻き込んで知恵（ex.消音の人工呼吸器の開発、観客席の整備、等々）を出し合い解決策を見つけて行くことを確認し合えば、一時の辛抱で済みますよね。

言い換えれば、お互いに、永遠の辛抱より、一時の辛抱を選び、互いの立場で問題点を周り（社会）に発信する勇気が必要かなと思っています。